

lafont.

カフェ・ド・ラフォン 20 号

Q&A 秋冬コレクション (mido) 2013

1. ミド展で発表されたコレクションテーマについて教えてください。



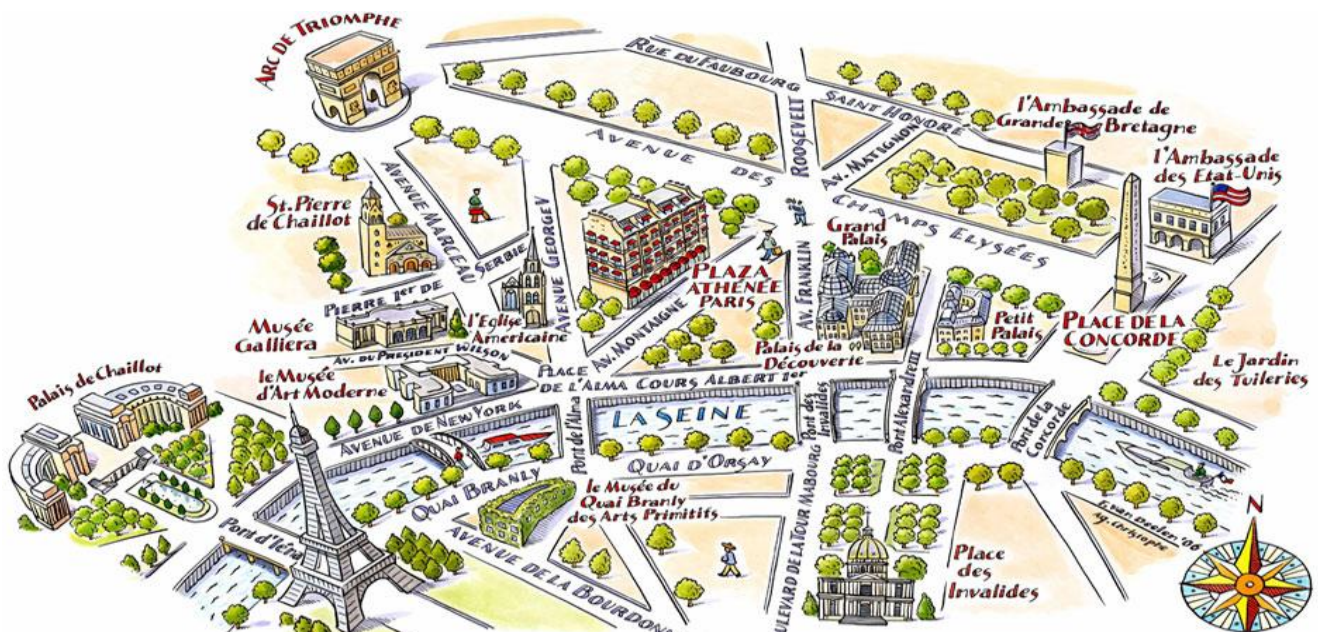
春夏コレクションでは「ランデヴー」がテーマの下、初夏の日差し溢れる緑豊かなガーデンでのピクニックが舞台になっていました。（フランスではピクニックはリラックスした優雅なレジャーの象徴とみなされています。）一方、今回の秋冬コレクションでは、同じテーマの下、パリの中心へと舞台を戻しました。ブロードの女性がアパルトマンの一角でエッフェル塔を眺めながら、恋人との待ち合わせ（ランデヴー）を夢想する場面……実際に相手があるかはともかくとして、品良くエレガントにドレスアップした佇まいの女性がパリの甘美な雰囲気を楽しむシーンに焦点を当てています。

今回は緑豊かな庭園からパリのアパルトマンへ、つまり屋外から屋内へと視点を移し、ハウステキスタイルにルーツを持つラフォンの原点に回帰しました。素材の質感やグラデーションの色合いが、ラフォン独自の感性を通して心地よい暖かな配色でまとめられ、洗練されたデザインがより一層引き立つコレクションとなっています。



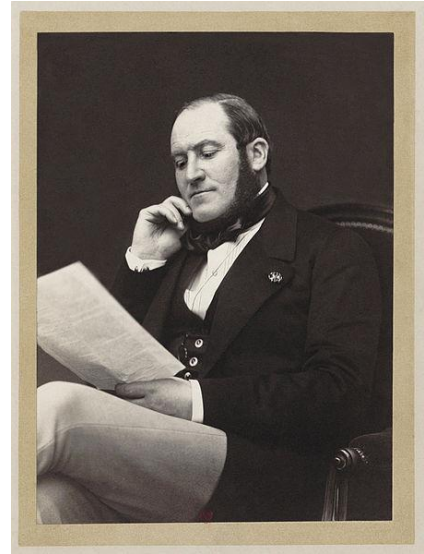
ラフオンのルーツの源であるインテリアやハウステキスタイルを強調したミッド展のブース。秋冬コレクションのイメージ画像やブース内面の壁、そして正面のメインディスプレイに使われた窓枠のバーガンディカラーは、マダム・ラフォンが秋冬向けに自宅の内装の模様替えをする時に好んで使った定番カラー。

今回のイメージ画像は、エッフェル塔がセーヌ川の向こうに見えるモンテーニュ通り (Ave. MONTAIGNE) の個人所有のアパートマンで撮影されました。このアパートマンは、19 世紀に「パリ改造」でインフラ整備を行った政治家、ジョルジュ・オスマンが指揮したオスマン調アパートマンのひとつです。モンテーニュ通りはシャンゼリゼ通りとセーヌ川を結ぶ高級ブティックやハイクラスのホテルが立ち並ぶ通りで、ファッションデザイナー達がこぞって店を構えたがる通りとして知られています。



2. 「パリ改造」について教えてください。

「パリ改造」とは、1853 年、セーヌ県知事に任命されたジョルジュ・オスマン男爵がナポレオン 3 世の命令を受けて行ったパリの再開発事業のことです。オスマンは、パリの街に光と風を送り込むという主目的の下、凱旋門を中心に放射線状に大通りを造り、複雑に入り組んだ路地を壊して交通網を整備し、下水道設備を改善させました。また、オペラ座等の文化施設や大型百貨店の建設、ガス灯の設置、カフェやレストランの場所の提供まで、市民が清潔・安全で快適に暮らせるよう都市改造を指揮していきました。



また、美観も重視すべく幹線道路の両側には 9 万本の街路樹を植えて公道や公園の緑化につとめ、歩道に舗石をし、沿道の建物は取り壊して新築しました。建物は軒高が連続するように統一し、屋根の

形態や外壁の石材についても細かく指定しました。(グレーのマンサード屋根にベージュの建物が特徴で、今ではオスマン調アパートマンと呼ばれています。左図参照。)



この大改造に投入した巨額資金の不正使用疑惑でオスマンは後に職を追われましたが、現在のパリの街並みの骨格を作った主要人物であり、「パリ改造」がヨーロッパの近代都市計画・建築様式に多大な影響を与えたことには疑いの余地もありません。

3. 今回のモデルのモチーフについて教えてください。

MALICE 吊り橋の橋桁の模様からインスピレーションを得ています。遠近法的な眺めを構成する吊り橋のラインの力強さや軽やかさ、橋桁の美しさをイメージしています。



MAGNOLIA and MELISSE 両モデルとも
アール・デコからのインスピレーションです。
アール・デコはラフォンにとって常にベースと
なるインスピレーションであり、MAGNOLIA
と MELISSE(意味はそれぞれマグノリアとレ
モンバーム)では、その名にちなんだモチー
フを取り入れました。



また、トーマは、母・ロランスが大好きだった花や植物のエッセンスをデザインに入れつつ、50 年代の
シボレーのヴィンテージ自動車やバイクにデザインされた炎モチーフのイメージも同時に取り込むなど、
これらのモデルに男性的アプローチも試みています。



MIROIR エレガントで優美なフロントやテンプルのラインが印象的なこのフレームは、パリ・シャンゼリゼ大通りにある老舗キャバレー「リド」に出演するダンサー達のグラマラスで華やかなイメージからインスピレーションを得ました。



4. 新色のインスピレーションについて教えてください。

カラー番号 621(レッド&パール) 独特な光の反射と屈折が作り出すタイシルクの光沢感を、大理石の優美なパターンと組み合わせて表現したカラーです。



カラー番号 406(グレー)、507(ブラウン)、614(レッド)、759(パープル)のパターン 50 年代後半の幾何学的なパターンが特徴的なネクタイやスカーフからインスピレーションを得ています。ラメの入ったセル生地にシルクプリントで模様をつけ、軽やかな光沢感を出したカラーです。



カラー番号 340(ダークブルー) & 580(トータス)

のパターン 80 年代のストリート系ファッションから得たインスピレーションを、パッチワークでアレンジしたセル生地です。



カラー番号 339(ブルー&ストライプ) & 405(カーキ&ストライプ)

ライプ 断面のランダムストライプの色合いがアクセントになったセル生地です。ホーン柄のセル生地をさまざまなカラーで作ри、幅の違うストライプにしてから表生地に貼り合わせました。ラフオンのオリジナルカラーとしては、スタンダードな製法で出来上がっていますが、エレガントでスマートな印象の生地に仕上がりました。



下の画像は私たちのスタジオでの作業風景です。膨大なスケッチやメモ、イメージからカラーリサーチを行い、どのように新しいカラーコンビネーションが生まれるか、その雰囲気を感じて頂ければ幸いです。

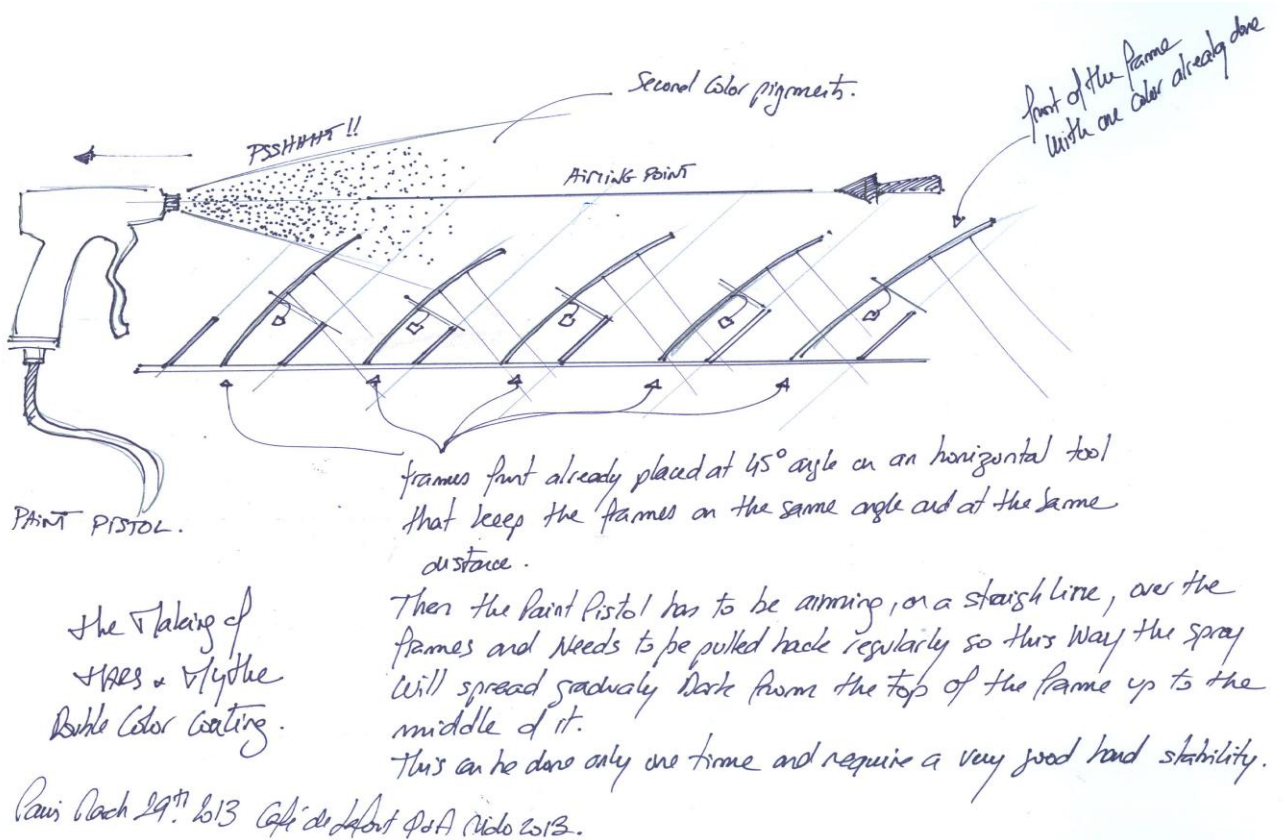


5. MARS と MYTHE の塗装の仕方を教えてください。

メタルフロントの美しいグラデーションは、エアブラシ塗装で行っています。工場と何度も試行錯誤を繰り返し、ラフオンフレーム用に機械を改良して実現したカラーリングです。

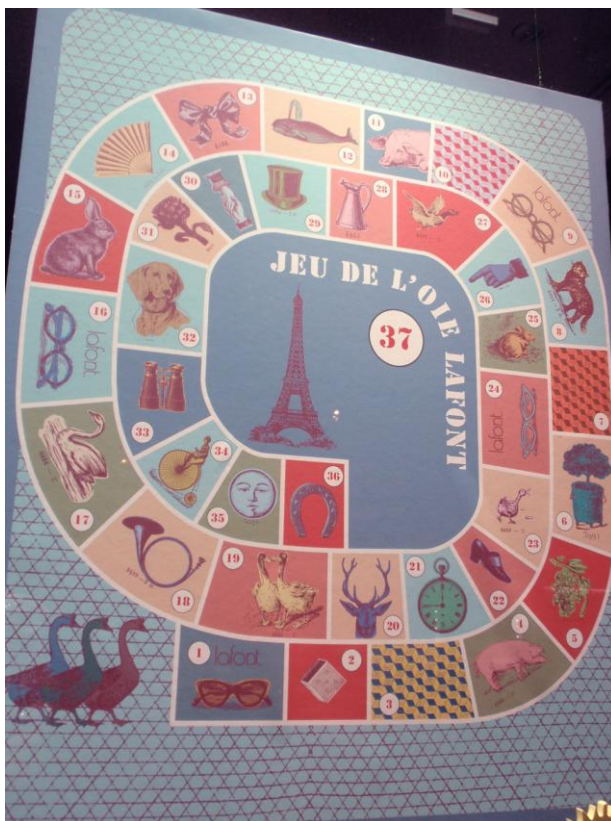


下のスケッチは、MARS と MYTHE の塗装場面です。一定の角度をつけてフロントパーツを固定し、エアブラシを水平方向に後退させながら塗装することで、美しいグラデーションが出来上がります。



6. 最近のラフォンブティックのディスプレイを教えてください。

4 月のディスプレイ。テーマはイースターです。



鶏やうさぎはイースター（復活祭）には欠かせない動物です。これらがシルエットになり、後ろには“Jeu de l'oie”と書かれた双六ゲームのボードがディスプレイされています。“Jeu de l'oie”とは「がちょうのゲーム」の意味で、古くからヨーロッパ（フランス・イギリス・オランダなど）に伝わるゲームです。寒くて暗い長い冬をやり過ごすのにうってつけの伝統的なゲームで、今でも子供たちに人気があります。

6 月のディスプレイ。オリエンタルなムード。蝶のオブジェをチャイニーズランタンや虫籠と合わせて。



7 月のディスプレイ。テーマはヴァカンス。南仏のアンティークポスターのコレクションと共に。



7. ラフォンのムービークリップについて。

ラフォンの最新ムービークリップが YouTube にアップされました。パリの 4 つのブティックを紹介しています。



タイトル: Les boutiques Lafont... depuis 1923

リンク: <http://www.youtube.com/watch?v=C2mu5x0CfJk>